

令和7年度 第1回 学校評議員会議

日 時：令和7年6月26日（木）15：20～16：45

場 所：会議室

出席者：成田委員・中村委員・櫻庭委員・外崎委員・櫛引委員・清水委員

千葉校長・菊池教頭・八島教頭・齋藤事務長・三上教務部主任・佐藤生徒部主任・

清野進路指導部主任・宮本渉外部主任・永倉探究図書部主任・

石戸1年次主任・泉山2年次主任・中畑3年次主任・中鉢教務部副主任

欠席者：なし

司 会：菊池教頭

記録者：中鉢

配付資料

- ・令和7年度 第1回学校評議員会議要項

- ・令和7年度 第1回学校評議員会議資料

- 資料1 学校経営方針、各年次・分掌 学校経営計画

- 資料2 学校評価計画案、令和7年度教育課程表、令和6年度後期授業アンケート集計結果、
令和7年度表彰一覧、令和6年度卒業生進路状況

- 資料3 年次通信、保健だより、新聞切り抜き

- ・学校評議員運営要領

内容

1 評議員委嘱状交付

2 学校評議員紹介・職員自己紹介

菊池教頭による評議員の紹介と職員の自己紹介があった。

3 校長挨拶

赴任早々教職員に伝えた学校経営方針を作成する上で最も参考にしたものは昨年度の学校評議員会議の資料であった。本校職員が何を伝え、評議員の方々がどのようにそれを受け取り、どのような疑問を持たれたか。私たちは精一杯教育活動を行ってはいるが、外部の視点でそれは妥当なものなのか。評議員会議で私たちに向けられる応援、疑義、提案などが教育活動を前進させる大きな推進力になっている。本年度もよろしくお願いいたします。

4 学校経営方針等について

校長より学校経営方針の資料を基に、重点目標と具体的方策を中心に説明があった。

5 本年度重点課題等について

資料1により、各分掌・年次主任から本年度の重点課題、課題の解決に向けた具体的方策についての説明があった。

6 質疑応答

・授業評価アンケート（資料２）の結果は生徒にどのようにフィードバックされるのか。（清水委員）

→ 結果は生徒には公表されず、教員間でのみ共有される。各担当者が結果を見て、授業改善に生かしている。
（三上教務部主任）

→ 参考までに、大学での授業アンケートはどのように処理されるのかを教えてください。（校長）

→ 学期毎に集計し、結果はシラバスの科目説明欄に改善案とともに記載することになっている。（清水委員）

・教務部の重点課題３番「情報発信を行い、本校の魅力を中学生・保護者・地域社会に広くアピールし、教育活動への理解と協力を求める。」とあるが、これは教職員がやるということなのか、生徒も一緒にということなのか。（外崎委員）

→ 発信者は主に教職員である。ただし、中学生の体験入学では生徒が司会進行を行う。（三上教務部主任）

・生徒部の重点課題の中にいじめに関する記述があるが、いじめの定義について、教職員と生徒の認識は一致しているのか。（外崎委員）

→ これがいじめだという具体的な記述を生徒に提示してはいないが、いじめアンケートの質問事項を通して生徒たちはどのような行為がいじめに相当するのかという認識は持っていると思う。ただ、自分が良かれと思って言ったことが相手は違う解釈をして、トラブルになった際に双方に内容を確認すると互いに「いじめにあった」と主張するケースもあった。いじめの火種と思われる事態が起きた際は、それをいじめだと糾弾するのではなく、互いの行動の中で何が問題であったかを問うことによってそれが関係改善に向かうような指導をしており、そのほうが本人たちも保護者も納得してくれるようだ。（佐藤生徒部主任）

→ 昨年度は９月にスクールロイヤーを招く機会があり、全生徒を対象にしたいじめ防止教室を実施できた。
（菊池教頭）

7 感想・所見

・学校経営方針、新分掌の探究図書部が実施するミニ講座や職業人講話などの進路行事から、生徒たちが今後社会人となるにあたり、どういうことを身につけてほしいかについて先生方が日々腐心されていることが分かった。せっかくの思いが生徒たちにきちんと理解されるように、学んでほしいことやその意義を生徒たちに伝えてもらいたい。（成田委員）

・狭い道を横に広がって通行する生徒や自転車でスピードを出して通行人とぶつかりそうになる生徒がいるという話を地域住民から聞いたので、けがをしない・させないためにも引き続き交通ルールの指導をお願いしたい。現在、町内の道路に関しては舗装のくぼみが点在しており、通行者にとって危険な状況が続いていたが、補修工事が行われる予定である。（中村委員）

・私も息子たちも本校の卒業生であるが、次男がこの度他県での大学生活を終え、本県で就職した。他校に比べて本校の卒業生は大学卒業後青森に帰ってくる割合が高いようである。今後の青森を支えてくれる人材の育成という観点で、地元愛を持ってここで何かをしたいという若者たちを育てるという役割もぜひ学校側に期待したい。（櫻庭委員）

・コロナ禍を経て、以前の学校生活を取り戻した現在、多くの活動や講座が行われていることは大変良いことである。校長から冒頭に言及のあった「挑戦と失敗」のごとく、生徒たちは多種多様な経験によって多くの学びを得ると思うので、そのような機会の提供が今後も継続していくことを期待する。次回の評議員

会議での活動報告を楽しみに待ちたい。(外崎委員)

- ・保護者として7年間、本校の活動に目を向けてきたが、先生方の努力がよく見えており、感心している。今春の進路実績が大変良かったので、このことから先生方が何を学び取ったのか、今後どうしていけば好調をキープできるのかについてしっかり話し合ってもらえればと思う。(櫛引委員)
- ・大学の教員として今日感じたことは、先生方が「将来の大学生」である生徒たちをよく見ているなということだ。最近の学生は、自分にとって興味・関心があることは深く調べて知識が豊富である反面、世の中で何が起きているかをあまり知らない。自分の好きな世界で生きているという傾向がある中で、幅広い教養や見識を身につけるために、小中学校との連携やボランティア活動など外部の人々と接する機会が多く用意されていることは教育的にとっても意義のあることだと感じる。これらは将来大学生活を送る際にも大いに生かされるだろう。(清水委員)

8 まとめ

評議員からの御意見などに対して、校長より感謝の言葉があり、第1回学校評議員会議を終了した。

以上